



協議会だより

発行 第五地区心潤う豊かなまちづくり協議会/会長：高見澤忠明

編集 総務広報部会 広報委員

総務広報部会

活き生き第一から第五地区みんなでトーク

～魅力あるまちなかの形成～

市長と話そう！「活き生き第一から第五地区みんなでトーク」が7月24日（木）に勤労者女性会館しなのきで開催されました。

今回は、『魅力あるまちなかの形成』をメインテーマに、各地区の代表がそれぞれ構想・問題提起等発表し、これに対して長野市から回答・助言などありました。まず、第二地区からは、『多くの人が散策したくなるハード面の充実』について、第三地区からは、『まちなかの空家、古民家を利用した賑わいの創出』について、第五地区からは高見澤会長が、『インフラの整備等、美観を維持し、まちに活力を与える』と題し提案を「中心市街地の活性化策事例の紹介依頼、更に駅前駐車場の整備、観光客に分かりやすい案内板の設置などにより、おもてなしと賑わいで、活力あるまちづくりに取り組みましょう」と述べられました。

加藤市長は、「就任後、市役所の意識改革に取り組みました。市民はお客様という意識を職員にどうしたら持ってもらえるか。そして市役所から元気を発信し、前例踏襲の殻を破る。人間関係が大事であり、まず挨拶を実行すると宣言をしたらガラッと雰囲気が変わった。来年は善光寺御開帳、新幹線の金沢延伸を控え、大きな転換期になる。そのためには中心市街地が活性化することが一番大切です。」と語られました。そして最後に市長総括として「このままでいくと30年後の人口は30万人を割ってしまい、まちの活力が無くなってしまふ。人口の減少に歯止めをかける気持ちで皆さまには臨んでいただきたい。そして出来るだけまちに住んでまちで買い物をする。これが長野市の活性化に結び付きます。」と力強く述べられました。



健康福祉環境部会

ノルディックウォーキング講習会

～爽やかな高原で健康増進～

梅雨も明けた7月25日（金）に、長野市内は予報では33℃で高温注意情報が発令され全国各地の多くの時点で猛暑日を記録しましたが、飯綱東高原の霊仙寺湖ノルディックウォーキングコースでは、総勢23名が参加して、インストラクター青柳範子さん（健康運動実践指導者）の指導の下、さわやかな高原の風が吹き渡る中で「ノルディックウォーキング講習会」が実施されました。

今回は、初体験の方やご婦人も大勢参加され、きれいに整備された芝生の上で講師からポールの長さ調整、握り方、歩き方、ウォーキングの効果など指導を受け、ポールを使って入念にストレッチを行った後、うぐいすがさえずり、あじさいが咲く林の中から湖の上をウォークする2.3kmのコースを全員マイペースで一周しました。

ノルディックウォーキングは年齢性別を問わず気軽に楽しみ、エクササイズ効率が高く、一般的な歩行運動と異なり、上半身の筋肉もより積極的に使われて、首や肩の血行も促進され鍛えることができ、誰にでもできることから、特に中高年の間では静かなブームになっております。

第五地区の健康福祉環境部会では、恒例行事となっており毎回好評を博しております。次回も皆さまの参加をお待ちしております。



第五地区老人クラブ連合会春季大会 ～なごやかなひと時を過ごされました～

平成26年度 第五地区老連春季大会が、6月5日（木）に中御所公民館に第五地区内にお住まいの米寿などをお迎えになられた方々をお招きして祝賀会が開催され、大勢の関係者が参加されて盛大に行われました。

来賓として、長野市長の代理、各町区長が出席し、お祝いのあいさつで須田荘一郎会長は「米寿の長寿のお祝いにご出席頂きましてありがとうございます。先日阿部県知事の著書を読みましたら、長野県は男女共に日本一の長寿県で、ということは世界一です。長野県は健康長寿でも日本一です。人様の手を借りなくても、自分の身の回りのことは自分でできるということです。医療費は全国一少なく、長野県に住みたいと思う人が最近急増しております。今後ともお元気でまちのお手伝いをいただきますようお願いいたします。」と述べ

べられ、慶祝者の皆さんに、会長より賞状と記念品が贈呈されました。長野市長代理の保健福祉部高齢者福祉課宮澤係長から「長野市も今日まで発展を遂げることが出来たのは、皆さまが永年にわたり、それぞれの分野でご尽力いただき、温かく見守り慈しみ育てていただいた賜物です。心から敬意を表しお礼申し上げます。長野市では、皆さまが安心して暮らせるよう、福祉に関して『安心生き生きプラン21』に取り組んで様々な施策を実施しております。」などご挨拶がありました。

次いで、五明南石堂町区長の乾杯の音頭で祝宴は始まり、皆さん和やかに歓談され、ひと時を楽しんでおられました。これからも健康に留意されて、すこやかに過ごしてくださいように。

■本年の慶祝者ご芳名

(敬称略)

	米 寿	白 寿	金 婚
中 御 所	青沼 邦子	須藤 明子	篠原 厚海
	内藤 信子		篠原百合子
	戸谷たか江		
	小林 サハ		
南石堂町	斉藤 初江		
	岡沢やす子		
北石堂町	高原 美子		
	東沢よし子		
	青木 忠雄		
	中野 泰子		
	斉藤 昭雄		
	11名	1名	1組 (2名)

第五地区からのお知らせ

第64回“社会を明るくする運動”

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と、あやまちを犯した人の再生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築こうとする全国的な運動です。

犯罪や非行のない安全で安心な地域社会の実現は多くの国民の願いです。そうした願いを叶え「世界一安全な日本」を創造するためには、あやまちから立ち直ろうとする人たちが、地域の中に適切な「住居」と「就労」などの生活基盤を確保することができるよう、社会復帰を支援することが重要です。これには、それぞれの地域に住んでおられる方々自身の、地域に対する思いと積極的な参加、まさしく「地域のチカラ」が不可欠となります。



7月1日（火）に長野市社会福祉協議会主催でJR長野駅東口デッキで、長野地方検察庁検事正、長野少年鑑別所長、長野市長ほか大勢の関係者参加して式典が執り行われました。第五地区からは、中山 功氏（長野地区保護司会会長）、保護司の小林 眞氏、松本五十二氏、中嶋英見氏、第五地区住自協会会長・末広町区長 高見澤忠明氏が参列されました。

式典は、中山会長の開会宣言に続き、加藤市長などのあいさつがあり、関係者一同で通りがかりの人たちに、うちわとティッシュをくばり、啓発活動を行いました。

稲荷山養護学校視察研修

～障害のある子どもたち勉学視察から学ぶ～

生涯学習委員会では、人権教育事業の一環として、7月14日(月)地域住民の方24名で、稲荷山養護学校を視察研修しました。

学校は千曲川沿いの稲荷山にあり、県内産のカラマツ材などをふんだんに使った木造校舎に知的障害者130名、肢体障害者120名が学んでいます。長野市からの通学は約62%の172名を占めており、肢体不自由教育は県内では2カ所だけだそうです。

学校は昭和44年に開校し、平成19年に現在の規模になったそうで、寄宿舎も完備しており、26名の生徒が教育的意味合いも兼ねて入居しているそうです。中には保護者の付添が必要な生徒、隣の病院に入院して看護師に付き添われ勉学している生徒、登校できない生徒には訪問教育も行っているそうです。障害が多岐にわたるので、一人ひとりに寄り添って教育しており、能力を発揮してその子らしく社会で自立していくことを目指し175名の職員が取り組んでいるそうです。



また、構内の各教室・施設を案内していただきましたが、小・中・高等部をさらにブロックに分けて、教育的ニーズから個別の支援計画を立て、マンツーマンで授業をしている姿が沢山見られました。中には看護師・母親に付き添われ、人工吸入器を装着し車いすに固定されて授業を受ける生徒、布団に寝たまま授業を受けている教室など、様々な教室でのその生徒に適した授業を目のあたりにしました。

障害児童は、地域の在宅で豊かに暮らしていきたいというニーズが高まっており、共生社会を目指して取り組んでいるそうです。

この子どもたちが障害をかかえ勉学に取り組んでいる姿を目のあたりにし、社会が障害に対する理解を深め、共生社会を実現すべく取り組み、人権を尊重し、豊かな社会生活が送れるよう私たちは配慮して取り組む必要があるのではないのでしょうか。

長野市市民のつどい

人権を尊重し合う市民のつどい

～メールより 心に届く 人の声～



7月4日(金)に若里市民文化ホールで、長野市・長野市教育委員会主催で、大勢の市民が参加して『人権を尊重し合う市民のつどい』が開催されました。

基調講演として、井沢元彦氏による『歴史の中の人権～日本人の差別意識～』と題した講演が行われました。

まず、海外の事例の紹介があり、アメリカでは自由と平等のスローガンを掲げて独立したが、過去には奴隷制度、そして現在も続く黒人差別があること。また、東欧ではイエスキリストの処刑に始まるナチスドイツのユダヤ人の差別・虐殺問題など、根底には宗教に基づくものが非常に多いそうです。

日本にも差別がある。それは部落差別です。外見上差が無いのに差別があるのは、宗教に基づく場合が多く、この場合は約1,400年位前の仏教以前の神道ではないか。部落差別はそれに基づく差別であり、それは穢れではないか。井沢説によると、日本の神道の中心概念のひとつに穢れがあり、その一番大きな穢れは死によって起こる穢れ。この説は現在学者の間で通説になっているそうです。

この穢れは、持統天皇によって改革された。それまで死んで神道形式で葬られていたものを、仏教を取り入れて仏教式の火葬を取り入れたが、日本の古代信仰の中に死は穢れであって絶対に避けなければならないという発想があった。



昔は皮の用途は沢山あり絶対に必要なものだったため、動物の死の穢れと触れ、それを生業とする人々を穢多^{えだ}として居住区を定めて差別した。

日本人は血を流すこと、死に触れることを穢れとして嫌ってきた固有の文化がある。この文化を見直す必要がある。これには自分たちはどういう民族なのか、どういう考え方を持っているのか、どこが外国人と違うのかをきっちりと把握すること。それが第一歩であり、教育の場でしっかり教えていくことが必要ではないかとのことでした。

各町からのお知らせ

北石堂町・南石堂町・末広町より

ながの祇園祭 ～御祭礼屋台巡行が行われる～

長野を彩る夏の風物詩の「ながの祇園祭」が7月13日（日）に盛大に執り行われました。

今年は各町が所有する伝統屋台のうち、権堂町、新田町、問御所町、元善町、大門町の5町が屋台運行町で長唄舞踊を披露しながら巡行し善光寺で奉納されました。また、置屋台として北石堂町が地元の中央通りに展示され、南石堂町はお先乗りの休息所として、公民館で接待しました。



午前9時30分にもんぜんぶら座前で、屋台を先導する「お先乗り」を務めるのは若麻績竹虎君（8歳：元善町）。お先乗りには神が宿るとされ、馬に乗り悪病などを払いながら屋台を先導する「綱切」の神事を行い、実行委員会役員、屋台を先導して善光寺に向けて出発しました。午後には、末広町会所に立ち寄り、南石堂町公民館で30分程休息し、疲れを癒しました。

北石堂町では、前日の宵山（前夜祭）が陽が沈むころから、ながの東急駐車場に登龍・降龍が彫られた絢爛豪華な屋台が置かれ、飲食ブースが設けられ大勢の観衆が集まり、鏡割りに続き山本謙竹社中によるお囃子、藤間千勢津社中による舞踊などが披露され拍手を送って見入っておりました。

武井義忠実行委員長（前第五地区住自協会会長）は「このお祭りも皆さまのおかげで盛大に開催できました。来年は御開帳が開催されますので、全国に観光資源として発信し、長野の伝統文化の継承に努力したいと思います。」と語られました。

南石堂町より

夏休み子どもラジオ体操

子どもが夏休みに入った7月28日（月）から31日（木）の4日間、南石堂町育成会（滝沢慎一会長）主催で、南石堂町商店街第一駐車場で子どもラジオ体操が行われました。毎朝NHKラジオ体操がはじまる6時30分に合わせて子どもたちが集まり、小学校低学年の児童約30人前後が元気よく体操したあと、カードにスタンプを押してもらっておりました。最終日には皆勤した学童はご褒美に図書カードを嬉しそうにもらっておりました。



夏休みの風物詩となっているラジオ体操は、初めて東京中央放送局（現在のNHK）で放送されたのは86年前の1928年で、日本人の平均年齢並の歴史があるそうです。ラジオ体操会を夏休みにする習慣のきっかけになったのは、1930年東京・神田の万世橋署児童係巡査が、「長期休暇中の子どもたちに規則正しい生活を身につけさせたい。」と始めたところからで、ラジオ体操発祥の地は東京・神田といわれております。

一時は夏季巡回ラジオ体操会が盛んに行われ、夏の定番行事になっておりましたが、今の子どもたちには陰りが見え始めているのではないのでしょうか。ぜひとも復権してもらいたいと願います。

事務局

第五地区の活動にご意見、ご提案がありましたら、各町の区長さんまたは、事務局にお問い合わせ下さい。

〒380-0835
長野市大字南長野新田町1485番地1
もんぜんぶら座8階 第一から第五地区合同事務所

TEL 262-1512 (FAX共通)
メール dai5@feel.ocn.ne.jp